とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	草花保育園
活動日時	令和8年1月16日（月）～23日（金）
クラス名（年齢）	たんぽぽ組（2歳児）
年間テーマ	自然

1、活動テーマ

＜テーマ＞

氷を作ろう

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

戸外遊び中、園庭の隅にある水道の水受けに薄い氷が張っているのを見つけた。保育者が手に取り子ども達に見せると興味津々な様子だったので、氷が作れないかと保育者がゼリーのカップに水を入れて一晩外に置いておいた。できた氷を子ども達に見せると「やりたい」と声が上がったので、冬の楽しさを味わえたら良いと思い、この活動をしようと思った。

2、活動スケジュール

・バケツに水を用意し、ゼリーのカップに自分でを入れる
・日々様子を確認し、氷ができるのを待つ

3、環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・園児のマークを貼ったゼリーのカップ
・容器を並べるかご

4、探究活動の実践

＜活動内容＞

・ゼリーのカップに水を入れてかごに並べ、氷ができるのを待つ
・氷ができたら触れたり手に取ったりして、感触を楽しむ

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
・「お水、このくらい？」などと言いながら何度も水を入れ直し、量を調節しながら自分でカップに水を入れる姿が見られた。こぼさないようにそっとかごに並べ、氷ができるのを楽しみに待った。 ・翌日見に行くも氷はできていなかった。「なんでできないのかな？」と聞くと、「凧あげしてたからじゃない？」と、その前に凧あげをして時間が遅くなったからではないかとの意見が出た。それなら朝見られるようにと思い、園舎裏に置いてあったカップをクラス前のテラスに移動した。 ・その後も数日氷はできなかったが、週末に何個か氷ができていた。「ツルツルだね」「スケートみたい」「冷たいね」「キラキラしてる」など、様々な感想を言い合っていた。 ・氷ができた子どもが、氷ができていなかった友達に見せてあげたり、触らせてあげたり、落として割れたことから割って分ける様子が見られ、皆で楽しむことができた。	

5、振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

・氷一つに色々な表現で思いを伝えられている様子に成長を感じた。また、友達に触らせてあげる、分けてあげる気持ちがあり、優しい気持ちが育っていることが嬉しかった。氷ができているカップとできていないカップの違いを考える子どももいて、「お水が多かったんじゃない？」「並べた所が違うから？」と水の量の違いや置いた場所に着目していて、考える力も育っているのだなと感心した。今回、クラス前に持ってきたことで朝日が当たってしまい溶けてしまったのかも？と感じたので、段ボールで日よけを作るなどして、またやってみたいと思う。